

下

# 子供、若者運営の支え

ジを持つ人が増えるよう、きれいな会場にしたい」と意気込んでいる。

クリアファイルの下の閉じられた部分を切つて開き、く

るりと丸めてセロハンテープで固定。その上に蛍光テープをらせん状に巻いていけば、立派な誘導棒のできあがり。

夜でも目立つし、かわいくも

ある。

25、26日、東京高円寺阿波おどりに参加する。2日間で約100万人が訪れる祭りで交通整理をするボランティアだ。

同中は昨年から、街の課題

とその解決法を学ぶため、授業の一環でボランティア活動に参加。東京高円寺阿波おどり振興協会の事務局長を招

き、増加する外国人観客への対応やごみの大量投棄についての課題について聞いた。

こうした課題を生徒が自ら解決しようと、今年は3年生約35人が、①道案内②交通整理③ごみ回収――の3グループに分かれ、大人のスタッフと一緒に活動する。

立高円寺中学校の3年生がこの誘導棒を手に、杉並区立高円寺中学校の3年生が

約35人が、①道案内②交通整理③ごみ回収――の3グループに分かれ、大人のスタッフと一緒に活動する。

道案内を担当するグループ

「多くの人に積極的に話しかけて阿波おどりの魅力を伝えたい」と伊藤佑君(14)。外国人の同級生から、案内時に役立つ英語を教えてもらつたという。

\*

杉並第八小学校では2013年から、「多くの人が来る高円寺阿波おどりについてもつと知ろう」と、6年生が当

日にごみを回収している。今年も20人がごみの分別を促す手作りアラカルドを掲げながら、大人のスタッフと一緒に回収する。

また、夜間に出来る冷蔵庫やイスなどの「便乗ごみ」が全体の7~8割を占めていることから、不法投棄をしないよう呼びかけるポスターも作成し、すでに掲示中。本番を控え、大久保希紅さん(11)

は「祭りに対して良いイメージをつくるなど、便乗ごみ防止に取り組む杉並第八小の児童たち(21日)

は、手作りの案内用紙を持つて会場に立つ。「より多くの来場者のために」と、英語と韓国語でも観覧の際の注意を書いた案内を作った。

「多くの人が集めづらくなつたりしたためだ。一方で、観客が増えたため、運営スタッフや資金が不足。高齢化で、運営に協力していく町会・自治会の会員が減つたり、商店街に貸店舗が多くなつて協力金が集めづらくなつたりしたためだ。

東京高円寺阿波おどり振興協会によると、民間警備員を雇う費用もかかり、祭りの存続

が危機的な状況になつたといふ。そこで、02年にボランティアを募集したが応募はなく、04年から杉並区周辺の専門学校などに声をかけた。

当初はうまく指示が出せない課題もあつたが、ボランティアは増え、杉並第八小、高円寺中も自主的に参加してくれるようになった。

「様々な人の応援があつて

ボランティアで使う案内用紙と誘導棒を確認する高円寺中の生徒たち(20日)

## 交通整理やごみ回収

高円寺の商店街の商店店主らが1957年に始めた祭り

は、2000年頃になると、運営スタッフや資金が不足。

で、契約した民間警備員とほ

ぼ同じ370人前後がボラン

ティアとして祭りを支える

（この連載は 石原宗明が担

当しました）